

Nutrition Support Times

第4回神戸スワローズ開催

嚥下障害に関する理解を深めること、または、患者の転入院に際し嚥下機能障害を円滑に紹介するシステム作りを目的に数年前に始まった「神戸スワローズ」、今回が第4回目の開催となりました。師走の多忙な時期にも関わらず、14施設40名以上の参加で熱く盛り上がりました。

第1部は、西神戸医療センター栄養管理室の大前佳奈子先生より嚥下食紹介がありました。ペースト食から粥食に移行する際に、増粘剤を追加する、飲料をゼリーにするなど、きめ細かい変更を個々の患者に対して行われていることが紹介されました。また、NST摂食嚥下チームの活動内容もご報告頂き、活発にチーム医療が行われている印象を強く受けました。

第2部は、当研究会設立の目的のひとつでもある、病院間の嚥下食対応表作成に向けたアンケートの実施について、当院NSTチェアマン東別府より説明がありました。嚥下食ピラミッド(金谷, 2004)を土台に、メーリングリストを活用しながら、各病院の食事をピラミッドの各レベルに当てはめて行く作業に入っていきます。

第3部は、柴耳鼻咽喉科の柴裕子先生にご講演頂きました。これまでのスワローズは、転入院に際して患者の円滑な嚥下リハビリテーションを目標に、病病連携の充実を目指していましたが、柴先生から、診療所における在宅患者の嚥下障害の評価、嚥下リハビリテーションの実施内容と問題点を詳細にご講演頂きました。問題点としては、ビデオ嚥下造影(VF)の評価ができないこと、当初の予想より重症患者が多く、リハビリテーションを計画するというよりは、経口摂取できるかどうかの判断を求められることなど、私達にとって目新しい視点でのご発表が続きました。また、急性期・回復期を経て自宅へ戻った胃瘻のある嚥下障害患者が、再度経口摂取が可能になった症例提示もあり、慢性期に到るまで長期間のフォローアップが重要であることを認識しました。

このように、病病連携、病診連携を通して、嚥下障害患者のQOLを高めることを目標に、神戸スワローズは今後も年2回程度のペースで開催していく予定です。多職種が一同に会する数少ない機会でもあり、嚥下障害に興味ある方の奮ってのご参加をお待ちしております。(文責:神経内科 荒木)



NCM 講演会予定

月日	内容	担当
H23/1/27	肝障害と栄養	松本先生
3/18	栄養とリハビリテーション	横浜市立大学センター病院 若林先生
3/24	腎障害と栄養	居神先生

NSTカンファレンス・回診

毎週水曜日 pm1:00～ 8北(861)NSTカンファレンスルーム

嚥下ピラミッド

今回紹介した嚥下食ピラミッドは6段階から構成される。それは均質性から不均質性への段階でもある。

その難易度をレベル(Level)であらわし、均質性では嚥下訓練食としてLevel 0(以下L0)、Level 1(以下L1)、Level 2(以下L2)、次に不均質性である嚥下食としたLevel 3(以下L3)、介護食(移行食)Level 4(以下L4)、普通食のLevel 5(以下L5)の6段階である。高齢者施設では、普通食L5から介護食L4へ、最終的にはターミナル食としてL0へと進む。他方、脳卒中などによる摂食・嚥下障害者では均質性であるL0から訓練開始され、段階的にL2、L3、L4、L5へと進む。すなわち、難から易へ易から難へと、双方向が成立する。これを基本に施設で共有できる嚥下食を作成しようとしています。



編集後記

実は今回のスワローズは年末のためとても不安でした。しかし、柴先生の名声のおかげで沢山の参加者と、たいへん活発な討議ができ、とても充実した時間が過ぎました。特に当院の耳鼻科の先生方のVEに対する積極的な質問に、今後の嚥下評価への意気込みを感じました。私たちも期待しています。